

### Ⅲ 劉慧英研究員（中国現代文学館・中国）の短期招請について

（明治大学国際交流基金事業招請外国人研究者講演録No.2「まえがき」の再掲）

政治経済学部助教授 鈴木 将久

## まえがき

2002年度明治大学国際交流基金事業として招聘した劉慧英氏は、中国現代文学館研究員をつとめておられる。

中国現代文学館は、著名な作家巴金などの呼びかけによって北京に設立された機関である。その活動は主に三点にまとめられる。第一に展示活動。中国現代作家の遺品、原稿などを収集し、広く一般に公開している。近年新しいビルが完成し、展示活動は飛躍的に進展した。第二に図書館活動。主に中国現代作家の遺族から寄付を受けた書籍を図書館として収集・整理し、やはり公開している。作家の蔵書が見られるという点で特色があるほか、他の図書館にはない貴重な資料を多数所蔵していることで有名である。第三に研究活動。十数名の研究員を擁し、中国現代文学に関する研究活動を行っている。また雑誌『中国現代文学研究叢刊』の編集・発行も行っている。当雑誌は中国現代文学研究界においてもっとも権威のある雑誌の一つとして知られている。

劉慧英氏は、開館当初から中国現代文学館に勤務し、当初は資料収集を担当していたが、1984年より『中国現代文学研究叢刊』の編集を担当し、85年からは正式に研究部門に所属している。彼女は、『中国現代文学研究叢刊』の編集者として毎年大量の原稿査読を行い、また中国現代文学館で発行する作品集および文学辞典の編集、海外の文学研究の翻訳などを担当する一方で、個人としても単著一冊を含む多くの研究を重ねてきている。

劉慧英氏の研究は、主にフェミニズムの視点から中国現代文学を読み直すものである。専著『男権伝統の垣根を超えて』の他、「富国強民と女権啓蒙」（『学人』第15号、2000年4月）、「90年代文学ディスクールにおける欲望の対象化」（『中国女性文化』創刊号、2000年10月）などの論文を發表し、中国女性と近代化の歴史をめぐる問題、90年代文学エクリチュールにおける女性像の問題などに関して、独特で掘り下げた研究を行ってきた。

明治大学では合計三回の講演をしていただいた。

- 1、2002年4月17日 九十年代北京の文化状況  
（学生を対象、通訳は鈴木）
- 2、2002年4月20日 中国現代の女権啓蒙と民族国家  
（研究者を対象、司会・通訳は鈴木）
- 3、2002年4月22日 九十年代中国文学ディスクールにおける女性のイメージ  
（学生を対象、通訳は鈴木）

学生を対象とした二回の講演では、いずれも中国の現代史の解説から話をはじめ、文化大革命時代、八十年代の文化状況から九十年代にかけての変化の意味などをわかりやすく話していただいた。とくに、九十年代に入ってから改革開放政策のもとで文化界も自由が

飛躍的に高まっている中で、むしろ古い問題が再浮上しているという講演内容は、学生に強い印象を残したようである。講演後の質疑応答でも多くの質問が殺到し、時間を超過して質問に答えていただいた。

研究者を対象とした講演会では、劉慧英氏が注目を集めている研究者であったこともあり、多くの参加者を得て、極めて密度の高い議論が行われた。

また明治大学以外でも多くの研究機関、研究会に招かれて講演を行った。

- 1、2002年4月24日 お茶の水女子大学ジェンダー研究センターにて講演
- 2、2002年4月25日 中国三〇年代文学研究会にて講演（場所：東京大学）
- 3、2002年4月27日 中国女性史研究会にて講演

さらに中国現代文学館と協定関係にある日本近代文学館にも表敬訪問し、交流活動を行った。このように極めて多忙な日程であったにもかかわらず、精力的に諸日程をこなしていただいた。劉慧英氏は、もともと研究は注目されていた学者であったが、多くの日本の研究者が実際に彼女と接する機会を得て、さらに注目が高まった。明治大学の国際交流基金事業が日本の学会に寄与することができたことは僥倖である。

なおこの度の招聘では、明治大学国際交流センターおよび生田ゲストハウスの多大なるお世話をいただいた。ここに謝意を表したい。